

主上已ニ東坂本ニ臨幸成テ、大宮ノ彼岸所ニ御坐アレドモ、イマダ參ズル大衆ハ人モナシ、
〔神皇正統記 後醍醐〕丙子元延元の春正月略中 十六日より、合戦はじまりて、三十日終ニ朝敵を追
落す、やがて其夜還幸したまふ、

〔皇年代略記 後醍醐〕建武三年元延元五月廿五日庚午、重幸山門敗軍自西國
魏來故也

〔太平記 十六〕聖主又臨幸山門事

官軍ノ總大將義貞朝臣、纔ニ六千餘騎ニ討成サレテ略中 官軍若戰ニ利ヲ失ハ、前ノ如ク東坂
本へ臨幸成ベキニ兼テヨリ議定アリケレバ、五月十九日元延元主上三種ノ神器ヲ先ニ立テ、龍
駕ヲゾ廻ラサレケル略中 此春モ山門へ臨幸成テ、程ナク朝敵ヲ對治セラレシカバ、又サル事ヤ
アラント、定ナキ憑ミニ積習シテ、此度ハ公家ニモ武家ニモ供奉仕ル者多カリケリ、攝籙ノ臣ハ
申ニ及バズ略中 武家ノ輩ニハ、新田左中將義貞略中 是等ヲ宗徒ノ侍トシテ、其勢都合六萬餘騎、
鳳輦ノ前後ニ打圍テ、今路越ニゾ落行給ヒケル、

〔太平記 十七〕自山門還幸事

將軍足利ヨリ、内々使者ヲ主上へ進ラセテ申サレケルハ略中 若天鑿誠ヲ照サレバ、臣ガ讒ニ
墮シ罪ヲ哀ミ思召テ、龍駕ヲ九重ノ月ニ回サレ、鳳曆ヲ萬歲ノ春ニ復サレ候へ略中 且ハ條々御
不審ヲ散ゼン爲ニ、一紙別ニ進覽候ナリトテ、大師勸請ノ起請文ヲ副テ、淨土寺ノ忠圓僧正ノ方
へゾ進ラセラレケル、主上是ヲ觀覽有テ、告文ヲ進ラスル上ハ、僞テハヨモ申サジト思召レケレ
バ、傍ノ元老智臣ニモ仰合ラレズ、ヤガテ還幸成ベキ由ヲ仰出サレケリ、

〔太平記 十七〕義貞北國落事

明レバ十月十日元延元巳刻ニ、主上ハ腰輿ニ召レテ、今路ヲ西へ還幸ナレバ略中 還幸ノ供奉ニ
テ京都へ出ケル人々ニハ略中 都合其勢七百餘騎、腰輿ノ前後ニ相從フ、